

平成 30 年 7 月市長定例記者会見 記録

平成 30 年 7 月 27 日(金)

午前 10 時～午前 10 時 30 分

発表案件

1 地域おこし協力隊や大学生などの人材活用を希望する地域等の募集について

担い手不足などの地域課題を解決するため、地域おこし協力隊や大学生など人材活用を希望する地域等からの提案を募集させていただきます。来年度（平成 31 年度）に、これらの人材活用を行う地域等を決定するため、本日 7 月 27 日より提案の募集を開始するものです。提案にあたりましては、

- ①自治会や複数の集落で構成される地区及び各種協議会など、市民が主体となって組織する佐渡市内の団体であること。
- ②人材を活かして地域活性化を図る意欲があり、人材の受け入れ態勢が万全であること。
- ③提案内容に関し、総会での議決など、団体において合意形成があること。

以上、3つの全てを満たすことが要件となります。募集要項をご確認のうえ、提案書など必要書類を地域振興課まで提出していただきます。人材活用につきましては、4つの人材を予定しております。

一つ目は、地域おこし協力隊です。都市などから人材を誘致し、地域おこしの支援など地域課題の解決に専門性等を活かして協力いただきます。提案が採択された場合、市と地域等で協力隊の活動内容等を決定したうえで、市が協力隊の募集を行い、受け入れが成立した場合は、最長3年まで協力隊の活動に必要な経費等を市が負担いたします。

二つ目は、大学及び大学生でございます。課題解決に適した専門性等を有する大学を誘致し、若い力や知識を活かして地域づくりに協力いただきます。大学連携に関する県や市の施設を活用するなど積極的に人材の誘致を推進いたします。

三つ目は、首都圏等の企業・専門家です。地域課題の本質を引き出し、地域等の魅力とともに考える企業・専門家を誘致し、交流の実践や地域づくりをサポートいただきます。国の外部専門家制度を活用するなど積極的に人材の誘致を推進してまいります。

四つ目は、U・Iターン者でございます。地域等で入居可能な空き家を確保するなど積極的にU・Iターン者の受け入れに取り組む場合、移住施策等を活用しながら、モデル地区として地域活動の即戦力となる定住希望者を誘致いたします。移住者の受け入れが成立した場合は、1物件につき5万円を地域等に交付する市の定住支援活動補助金をはじめ、交流・定住促進に関する施策を活用するなど重点的に人材の誘致を推進いたします。

また、これらの4つの人材を組み合わせた活用の提案も可能でございます。

募集要項は、地域振興課及び各支所・行政サービスセンターの窓口に備え付けるほか、市のホ

ホームページからダウンロードできます。

募集期間は、本日7月27日の金曜日から9月28日金曜日までといたします。提出期限となります9月28日以降、提出いただいた提案内容を審査し、5件程度の地域等を採択する予定になっております。審査結果につきましては市のホームページで公表させていただきますので、よろしくお願いたします。多くの各地域からのご提案をお待ちしております。

2 「2018 佐渡オープンウォータースイミング」の開催について

今年で6回目となります「2018 佐渡オープンウォータースイミング」を8月5日の日曜日、佐和田海水浴場を会場に開催します。今大会には全国各地から過去最多の613名の方がエントリーをしていただきました。

オープンウォータースイミングは、海、川、湖など自然の水の中で行われる長距離の水泳種目で、2008年の北京オリンピックから夏季オリンピックの正式競技に採用されております。

佐渡では昨年までは5,000メートル、2,000メートル、1,000メートルの3種目で行ってまいりましたが、参加者のニーズにお応えし、今年から5,000メートル、3,000メートル、1,500メートルの3種目に距離を延長いたしました。また、前日の8月4日にはチャレンジスイム500メートルを行います。そして、5,000メートルの男女総合上位3名の方には、オープンウォータースイミング日本選手権の出場権が与えられる大会となっております。

今大会のゲストにつきましては、オリンピック競泳種目で北京・ロンドン・リオデジャネイロと3大会連続でメダルを獲得した松田丈志さんを昨年にも引き続きお迎えする予定になっております。松田さんは大会前日に「松田丈志さんと過ごす半日」と題し、チャレンジスイム500メートルや参加者を対象にした佐和田海水浴場におけるビーチクリーン、そして、どなたでも参加可能なトークショーなどを河原田小学校体育館で行います。また、大会当日は表彰式のプレゼンターとして参加していただく予定になっております。市民の皆さんが参加できる松田丈志さんのトークショーは、8月4日土曜日の15時からとなっております。

5日のオープンウォータースイミングのスタート時間は、1,500メートルが8時、3,000メートルが9時30分、5,000メートルが12時15分からとなっております。

是非とも会場にお越しただいて、声援をいただきいただき、大会を盛り上げていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

3 「2018 佐渡国際トライアスロン大会」の開催について

佐渡の活性化とスポーツ振興・観光振興を目的に、平成元年から開催をしております佐渡国際トライアスロン大会も、今年で記念すべき30回目を迎えることとなります。今年も多くの皆様からエントリーをしていただきました。Aタイプが、1,048名、Bタイプが、836名、Rタイプ、リレーです。312名（104チーム）、延べ2,196名の皆様が参加予定になっております。この他、前日の9月1日土曜日に開催されるジュニア大会にも128名が参加される予定でございます。今年

は海外から 12 ヶ国 26 名の選手が参加いたします。

9 月 2 日日曜日の本番当日は、河原田小学校グラウンド前の海岸からタイプ別に競技が始まります。A タイプは午前 6 時、日本選手権は午前 7 時 20 分、B タイプとリレータイプは午前 7 時 30 分にスイム競技からスタートとなります。最終のフィニッシュ制限時間は 21 時 30 分となります。

また、大会前々日の 8 月 31 日金曜日には、好評をいただいております島祭りパーティーとオープニングセレモニーをサンテラ佐渡スーパーアリーナで 18 時から開催いたします。鼓童の出演もあり、佐渡の食材や地酒を味わいながら参加選手と触れ合う場として市民の皆様からもご参加いただければと思っております。なお、島祭りパーティーは選手を無料招待いたします。一般の方は 2,000 円、小・中・高校生は 1,000 円、幼児以下は無料となります。いずれも事前申込が必要となりますので、詳しくは佐渡市スポーツ協会までお問い合わせください。

また、今年は 30 周年を記念いたしまして、8 月 26 日の日曜日から 9 月 3 日の月曜日まで、アミューズメント佐渡展示室におきまして 30 年の軌跡を展示いたします。懐かしい写真も多数ございますので多くの皆様に立ち寄り、ご覧いただきたいと考えております。

本大会の A タイプは国内最長距離で日本一過酷といわれており、長時間に渡っての多くの市民ボランティアの参加やノーカードーなど市民の皆様のご協力をいただき運営しております。ここに感謝申し上げますとともに、今年も協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。

4 佐渡鈍翁茶会 2018 の開催について

昨年、イベントとして開催しました佐渡鈍翁茶会につきましては、本年が益田孝さんの生誕 170 周年にあたることから、益田孝の功績を称えるため、益田孝の父、益田鷹之助が務めていた佐渡奉行所において記念イベントとして茶会を開催させていただきます。

益田孝とは、相川出身で近代日本を支えた代表的総合商社、旧三井物産の初代社長であり、また、茶人としても高名で鈍翁と号し、千利休以来の大茶人と称されました。

今年は、10 月 20 日の土曜日、21 日の日曜日の 2 日間に渡って開催いたします。茶会の内容としましては、茶席 2 席に点心（弁当）付きで、鈍翁ゆかりの茶道具等の展示、本人の功績等を紹介する企画展を行います。

茶券の料金は、一般、一人 5,000 円で、募集人数は、両日とも 150 名となっております。

お申込みは、佐渡市ホームページ内の申し込みフォームか市役所本庁、支所・サービスセンター等に用意する所定の申込用紙に必要事項をご記入のうえ、佐渡博物館まで申し込みいただければと思います。なお、申込期間につきましては、8 月 6 日の月曜日から 9 月 14 日の金曜日までとさせていただきます。

佐渡鈍翁茶会 2018 に関するお問い合わせは、佐渡博物館までお願いいたします。鈍翁の生誕の地であります相川での茶会開催をきっかけに、より多くの皆様に郷土の偉人の一人である益田孝の人柄と功績に触れていただきたいと思っておりますので、多くの皆様のご来場をお待ちしております。

5 「佐渡クリーンアップ大作戦」の実施について

市ではこれまで、「ごみゼロ運動」や「佐渡市一斉清掃及びプラス行動」を行ない、美しい景観と環境保全に取り組んでまいりました。また、観光客の皆様が佐渡を訪れた際、「美しい島佐渡、おもてなしに満ちた佐渡」を感じ取っていただけますよう、国道 350 号をはじめとする主要道路沿いを中心に、佐渡地域振興局のご協力をいただきながら、車道の路肩などの草刈りを実施しており、また島内各地で島民一丸となって環境美化活動に取り組んでいるところでございます。

今回は、9月2日の日曜日に開催されます佐渡国際トライアスロン大会前の8月25日の土曜日に、昨年度同様クリーンアップ大作戦を今年は市内3か所、中身は両津地区は河崎から両尾の区間、相川地区はめおと岩周辺、羽茂地区は羽茂小泊から羽茂村山の区間で、午前8時から実施する予定でございます。選手をはじめ観光客のみなさんをおもてなしの心で気持ちよく迎えたいと思います。

このクリーンアップ大作戦の詳細につきましては、今後、市報やホームページ・SNSなどを通して市民の皆様にお知らせさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

事前質問

1、佐渡鉱山は今夏、世界遺産の国内推薦候補に選ばれませんでした。文化庁からどのような課題をいくつ示されたのかを教えてください。

2、市として今後、文化庁から示された課題に対し、どのように取り組まれる方針かを教えてください。

3、国の文化審議会世界文化遺産部会は、記者会見で世界中の他鉱山との比較研究をさらに進める必要があると指摘しました。これに対し、市としてどのような対応される方針かをお聞かせください。

という内容のものでございます。これにつきましては、現時点で課題の詳細はまだ把握できておりません。今後国から示される課題を詳細に分析・検討するとともに、今後の進め方を十分に検討したうえで、県や関係者の皆様と相談しながら一つ一つ対応してまいりたいと考えております。

また、文化遺産部会での記者会見での指摘についてでございますが、世界の他鉱山との比較・研究につきましては、課題がどのようなものかを国から正式に示されたうえで、その中身を確認しながら県と共に対応を考えていきたいと考えております。私のほうからの発表案件は以上でございます。

質疑応答

1 地域おこし協力隊や大学生などの人材活用を希望する地域等の募集について

記者：

具体的に島内で既にやっている取り組みの中でどういったものが対象となりうると理解すればよろしいでしょうか。

市長：

今までと基本的な考え方で今回少し修正させていただいたのは、地域おこし隊などを受け入れたい地域がどういうことをやっていただきたい、どういう役割を協力隊の方とかに果たしていただきたいか。逆に協力隊等に応募してくる側が何を役割としてやりたいかという希望もある訳です。ここのマッチングというものがこれまで完全にできてたかというところについては、いくつか反省点もありましたので、その辺を含めて受け入れる側のそれぞれの地域の方が、大学生の問題もそうですけども、どういうことで一緒になって取り組みたいのかという部分を、まず佐渡島内の各地域のほうから考え方を募集するというところから始めて、その後のマッチングに繋がたいということでございます。

記者：

今の段階でモデルとなるようなケースがあるというわけではないということですか。

市長：

基本的に、これまで地域おこし協力隊等については何年もやっておりますので、非常に効果が出た部分もあれば、残念ながら途中で最大3年いかずに終わってしまうケース等もありましたので、その辺の部分も含めて可能な限りしっかり地元密着で一緒になって力を注いでもらえる環境をどう作れるかという考え方から、こうさせていただくということです。

記者：

地域おこし協力隊の募集条件が今までと変わってきていると思うんですが、それを元にもうまくマッチングしていけるんですか。地域だとフルに活用っていうことが出てくるんですけれども。

市長：

そこについてはちょっと詳細の募集要項についてはまた担当課のほうから説明しますが、地域おこし協力隊のほうも、例えばその募集内容も含めてこれまでと少し変えさせていただいたのは、今までは3年間については地域おこし協力隊の業務に専念していただく、それ以外の業務は避けていただくという部分もございましたけども、今度はあいた時間であればそれとは別の個人の意味合い、考え方の中で様々な体験、経験も積んでいただきたいという形で、そこは少し自由度を増す内容にさせていただきました。例えば、最大3年間の任期が終わった後もそのまま佐渡に残って定住していただくための色んな経験、キャリアを積んでもらう要素もしっかり作りたいたいということに変えさせてもらいました。その上でその地元と考え方が一緒の中で入りこんでくれないと、やはりうまくいかない場合も出てきますので、その辺トータル、マッチングの大切さと先ほど言わせていただきましたが、それ踏まえてやったほうがしっかり根付いてくれるのかなという

考え方もあります。

産業観光部長：

募集の要項と申しますか、条件についてご説明をさせていただきます。

今年度、内容というところ見直しをさせていただいております、主なところ、これまでの業務の形態等々考えながら、隊員の身分をこれまでの臨時職員から、市と雇用関係のない業務委託方式へ見直しをしてございますし、受入れ地域の責務、それからサポート体制の強化をはかるために、隊員の活動報告、これにつきまして受入れ地域の確認を得たうえで提出をしてもらうようにしております他、事前の受入れ地域での活動体験を希望する場合は、交通宿泊費の一部を市が負担するなどというところで、さらに深めて活動しやすくしていこうということでございます。

記者：

今の条件の元で、地域がフルに使いたいっていった場合はどうなるんですか。

産業観光部長：

細部ということになりますと、そこはまたお話をさせていただいて、詰めていかせていただきたいと思いますっております。

2 「2018 佐渡オープンウォータースイミング」の開催について

なし

3 「2018 佐渡国際トライアスロン大会」の開催について

記者：

記念の大会ということですから、今年は注目選手とか見どころというところも非常に関心が出ておりますが、その辺りはどうですか。

社会教育課長：

30周年の記念大会ということで、今の考え方のほうをご説明させていただきます。1つは先ほど市長からも申し上げましたが、30回大会記念栄光の軌跡ということで、アミューズメント佐渡で8月26日から9月3日の間、過去のパネル等をどなたでもご覧できるような形で映像等も放映していくということで考えております。あと、特別なことはプログラム等でメッセージを今までの方からいただいたり、今まで参加してくれた選手とかスポンサー、学校を挙げて協力している島内の高校生、母校の生徒からお祝いコメント等もプログラムに載せてプログラムのほうを充実させていくというのが1つでございます。選手のほうは、30周年で特別呼ぶということではございません。あとこちらのほうで取り組むというふうに今考えておりますのは記念のポロシャツ等を作りながら、島内全体で盛り上げていきたいというところを今考えておるところでございます。

記者：

第1回目からずっと取材しておるんですけども、1回目、2回目、3回とシマモト先生という

方がいましてですね、その人のレース展開と、あと応援の状況とか、やはりその報道するにあたって何かがあったんですね。で、それ以降ずっとこう見てるとなんとなくこう最長コースでアップダウンというものはあるものですね、なかなか佐渡のというその大きなポイントが感じられないんですね。その辺りは今後、まだ期間もありますから、何かこう色々工夫しながら盛り上げるものにしていただきたいなと思います。これは意見です。

市長：

ありがとうございます。ちょっと現状、毎年毎年、例えばよくあるパターンは他のトライアスロン以外でも招待選手を、ある程度のネームバリューのある方を呼ぶとかいう部分もあるとは思いますが、このトライアスロンも途中から日本選手権が一体になりましたので、日本選手権の選抜のほうにかなりトップ選手がそちらの形のエントリー参加っていうことになっていることもあって、色々その辺の調整とかもあるんで、来年以降も色々な工夫はこらしていきたいと考えております。

4 佐渡鈍翁茶会 2018 の開催について

なし

5 「佐渡クリーンアップ大作戦」の実施について

なし

事前質問 追加質疑

記者：

例年ですと文化審議会の国内推薦候補の発表と同時に、ペーパーの形で各候補地の進捗状況と進捗が見られた部分と、その課題を銘々示していたと思うんですが、今年はそういったペーパーがなかったんでしょうか。

市長：

例年、昨年までもそうですが、審議会の国内推薦地の候補の発表から、要するに今後の課題とか進捗が見られるものの部分の内容が候補先に届くのはいつも一週間から10日後でございます。当日それもセットで、ということはこれまでもありません。